

主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

メッセージ 2

福音において啓示されている神の義

聖書：ローマ 1:16-17. 3:24. マタイ 5:20. 6:33. I ヨハネ 1:9. ペリピ 3:9

I. 義は、神の御座の土台です——詩 89:14. 97:2 :

- A. 義は、神の外側の行動、方法、行為、活動と関係があります。神が行なうあらゆる事は、義です——啓 15:3。
- B. 義は、神の義なる、厳格な要求にしたがって、神の御前で人、事、物に対して正しくあることです——マタイ 5:20. I コリント 15:34。
- C. 義は、神の王国の事柄です——マタイ 6:33 :
 - 1. 義は、神から、彼の行政のために出てきたものです——詩 89:14. 97:2. イザヤ 32:1
 - 2. 義は、神の統治、行政、支配と関係があります。
- D. 義は、わたしたちの中で神に対して正しいという事柄です——II コリント 5:21. ローマ 3:21. 10:3-4 :
 - 1. わたしたちの存在の中で神に対して正しいことは、内なる存在が透明で水晶のように明らかであること、すなわち、内なる存在が神の思いとみこころにしたがっていることです——12:2. 啓 21:21。
 - 2. このように義であることは、キリストの中で神の義となることです——II コリント 5:21.

II. ローマ人への手紙における神の福音に関するかぎの言葉は、ローマ第1章17節にあります——「義人は信仰によって命を持ち、そして生きる」:

- A. 神の福音が力強いのは、神の義がその中で啓示されているからです——ローマ 1:16-17。
- B. 神の救いは、ヨハネによる福音書ではその源としての神の愛からであり(3:16)、エペソ人への手紙ではその要素としての神の恵みによりますが(2:5, 8)、ローマ人への手紙ではその基礎としての神の義によります(1:17)。
- C. 神の義は、彼が行動する方法です——詩 103:6-7。
 - 1. それは、神の律法、規定、原則と関係があります。ですから、それは法理的な事柄です。
 - 2. それは、神の福音が神の義の方法にしたがって法理的であることを示します。
 - 3. それは、神が彼の救いを執行するための要求を満たします。
 - 4. ですから、力強い(ダイナミックな)ことは神の福音のかぎです——ロ

ローマ 1:16-17。

5. こうして、それは土台である神の福音の中で啓示されます。それは神の御座の土台のように堅固で安定しています——ローマ 1:17. 詩 89:14。

6. ローマ第 3 章 24 節は、神の義認が価なしに神の恵みによるものであると言っています：

a. 法理的な面での神の義による義認は、神の義の要求を満たす手順であり、神は義によって罪人を義とすることができました。

b. 価なしの神の恵みによる義認は、神が彼の目的を成就するための手段です。それは、彼が選びの民に命を与えて、彼らを命と性質において彼のようにするためです——参照、5:10, 17-18, 21。

D. 律法を守る者は、律法を守って彼ら自身の義を立てようとします（ローマ 9:31. 10:3）。しかし「律法の行ないによっては、いかなる肉も、神の御前に義とされ」ません（9:31. 10:3）——3:20。

E. わたしたちがキリストを経験することは、神の義の土台に基づいています——詩 89:14：

1. 神の義は、神の御座の揺り動かされない土台です——97:2。

2. 神はわたしたちの罪を赦すことによって、ご自身の義を示しました——I ヨハネ 1:9。

a. わたしたちの失敗のゆえに、わたしたちの良心がわたしたちを罪定めるなら、わたしたちは神の義の土台の上に立つことを思い出す必要があります——詩 89:14. 97:2。

b. わたしたちがイエスの血を宣告して、神の義に訴えるときはいつでも、神にはわたしたちを赦す以外に選択はありません——I ヨハネ 1:7。

III. パウロは、キリストにある信仰を通しての義、すなわち、信仰に基づく神からの義を持つことを願いました——ピリピ 3:9：

A. 自分自身の義を持つのではなく、神からの義を持つことは一つの状態であり、その中でパウロはキリストの中に見いだされることを願いました——9 節. 参照、ヨブ 1:1, 8. 2:3. 42:5-6。

1. パウロは、自分自身の義の中で生きるのではなく神の義の中に生きることを願い、またそのような超越した状態の中に見いだされ、キリストを生きることによって神の表現することを願いました——ピリピ 3:9. 1:20。

2. パウロの願いは、キリストの中に生きキリストを義として持つ人として観察されることでした——ローマ 5:21。

B. キリストが信者の義となることには二つの面があります：

1. 第一の面は、信者が神によって客観的に義とされるために、キリストが彼らの義となるということです——3:24-26. 使徒 13:39. ガラテヤ 3:24 後半, 27。

2. 第二の面は、キリストが信者から生かし出された彼らの義となって、神の現れとなるということです。神はキリストにあって、信者が主観的に義とされるために彼らに与えられた義です——ローマ 4:25. I ペテロ 2:24 前半. ヤコブ 2:24. マタイ 5:20. 啓 19:8.
 3. これら二つの面は、ルカ第 15 章 22 節とマタイ第 22 章 11 節から 12 節における衣によって予表されています。
- C. ピリピ第 3 章 9 節における神の主観的な義は、実は神と人に対して正しい日常生活となる神ご自身です：
1. パウロは彼自身の義の中で、すなわち、人の努力で律法を守ることによって得る義の中で生きることを願いませんでした——ピリピ 3:6, 9 節。
 2. わたしたち自身の義は、わたしたち自身の表現、わたしたち自身を生かし出したものです。
 3. パウロは、神の義の中で生き、そのような卓越した状態の中に見いだされ、律法を守ることによってではなく、キリストを生きることによって神を表現することを願いました——参照、マタイ 5:20。
 4. 神と人に対して正しい生活は、わたしたちの日常生活での表現としての神、すなわち、わたしたちを通して生かし出された神ご自身でなければなりません。——II コリント 3:9. 啓 19:7-8。